

町田市立図書館協議会 第12期第12回協議会議事録

日時：2008年10月14日（火）
午前9時30分 ~ 午前11時30分
場所：町田市立中央図書館 6F 中集会室

第12期第12回町田市立図書館協議会

2008年10月14日(火)

(出席者)

(委員)

水越 規容子 委員長	勘解由小路 承子 副委員長	廣瀬 由美子 委員
久保 礼子 委員	市川 美奈 委員	島尻 恵美子 委員
阿部 千恵子 委員	松尾 昇治 委員	

(事務局職員)

守谷図書館長	近藤主幹	佐藤庶務係主査
--------	------	---------

(欠席者)

遠藤 剛 委員	沢里 冬子 委員
---------	----------

(傍聴者)

0名

(内容)

- 1) 館長報告
- 2) 鶴川駅前公共施設の進捗状況
- 3) 町田市教育に関する市民意識調査第1次集計結果について

(配布資料)

- ・ 館長報告
- ・ 鶴川駅前公共施設市民ワークショップC-5案・D案
- ・ コロボックル物語の世界 佐藤さとの展の結果報告について

(議事録)

水越委員長：それでは協議会を始めさせていただきます。では、館長報告をお願いいたします。

図書館長：おはようございます。朝早くからいつもありがとうございます。先ず1点目、07年度の決算特別委員会がございました。裏面を見ていただきますと、議員から出された図書館と文学館への質問があります。佐々木議員からは、「06年度と比較して図書購入費の増減は？」という質問があり、07年度は06年度とほぼ同じで減っておりませんという報告をいたしました。文学館に関しては、入館者数の問題で展示の工夫が必要ではないかということでした。熊沢議員からは、図書館に収入金として本の弁償金が入ってきますので、そのページを見ながら年間どれくらい弁償の本があるのかという質問でした。実際には250冊ぐらいの現金弁償があり、現物弁償が原則ですから買えるものは本で弁償していただきますが、現物弁償も併せますと600冊ぐらいです。それに関連して未返却資料についての質問でした。

齊藤議員からは、図書館の成果の指標となるデータについて、ただ貸出冊数だけでいいのかという質問でした。現在、来年度に向けて図書館評価のあり方について館内で検討するチームを作って、図書館業務を的確に評価して外に向けてアピールしていくためにどういう指標がありうるのか検討しているというお答えをしました。文学館についてもいわゆる文学に限定しないでもっと幅広く考えるべきではないかというご意見をお持ちのようで、文学の定義をどのように考えているのかという質問でした。

2点目の第7回定例教育委員会について、一つは9月22日に市長と教育委員との懇談会の報告がありました。今年度から新たに教育委員になられた高橋圭子委員（読み聞かせのボランティアなども行っている方と聞いています）が図書館の資料購入費の増額について発言してくださったようです。予算編成権は市長にあるものですから、理事者と教育委員の懇談会は予算時期に併せて、教育委員会としてこういう点に新年度予算編成で配慮してほしいということを念頭に置きながら申し上げるものなのです。ほとんどが学校教育に関する申し入れなのですが、生涯学習関係では図書館だけ資料費のことを要望してくださったということです。高橋教育委員は特に子どもの読書に関心をお持ちのようで、OECDの学力調査を例に挙げて日本の子どもたちの読解力の問題や、東京都で実施した小中学校の調査でも、国語の読みが東京都の平均よりも町田市は若干下回っているということを例に挙げて、読書が如何に大切かということ市長に話されたという報告がありました。報告事項として、文学館から第2回文学館まつりの開催「コロボックル物語の世界 佐藤さとる展」の結果報告がありました。コロボックル物語の世界はわりと好評で、文学館のオープニングに次いで入館者が多かったと聞いています。

3番目、「さるびあフェスタ2008」が9月14日に市民ホールで行われました。別紙を見ていただくと、どういう団体がどういう内容で参加したかが載っています。子どもたちを対象にした関係セクションが集まって、市の団体だけでなく、楽しい1日を過ごそうということで3年前から始まったものです。図書館については「絵本ワールド」という内容で、絵本の読み聞かせやお話を10回行いました。中央図書館の職員と市民ボランティア（語りのボランティア）の方にやっていただいて、私も午前中見に行きましたが、さるびあフェスタそのものも盛況で、おはなし会もたくさん人が入っていました。ご協力いただいた方にはありがとうございました。

4番目、「大人のための図書館活用法大学図書館を使ってみよう」の実施報告について、和光大学附属梅根記念図書館と連携して9月20日（土）に、一般市民を対象にした講座を実施いたしました。参加された方からのアンケートをまとめてありますのでご覧ください。募集定員20名のところ16名の参加がありました。コンピューター端末を使って情報検索の実習を行うため、端末に限りがありますので、20名という定員で募集しました。参加された方のご意見を読んでいただくとわかりますが、大変好評でした。私も初めて和光大学図書館の中をじっくり見せていただいたのですが、やっぱり公共図書館とは違う品揃えで、雑誌や全集などでも公共図書館では持ちきれないものも随分ありまして、非常に市民の方に有効だと思ひ

ました。和光大学図書館との共催は3回目(年1回開催)で、2006年から連携が始まっていて、町田の図書館利用券があれば、無条件で大学図書館の利用券が作られて貸出しができます。雑誌以外であれば町田の図書館を通じても資料を借りることができます。その場でカードを作る利用者の方もたくさんいて、なかなか有意義でした。沢里委員はその図書館の事務局長なので、その日もいらっやって、講座終了後お話をしたのですが、鶴川駅前に図書館が出来ますので、和光大学の学生だけでなく、高校生・大学生の多い駅なので、そういうことを意識した鶴川図書館のあり方を考えないといけないという話をして、ご相談を申し上げております。

5番目、町田市教育に関する市民意識調査の第1次集計結果の速報版についてご報告しておきます。前回、教育総務課担当者が町田市教育プラン素案の説明に参りましたが、今日それがこの後議題となっていると思いますが、教育プラン策定に伴う市民意識調査を、先日、その質問項目についてもご意見等をいただき、追加訂正をして実施いたしました。無作為で4,000人の方に郵送で送らせていただきましたが、回収率が50%弱でなかなか高い回収率となっています。回答の約60%が女性です。年齢的には、20代が8%、30代が18.7%、40代が18.4%、50代が17.8%、60代が22.2%、70歳以上が14.4%で、年齢層の回答が無かったのは0.5%でした。お手元のコピーは図書館に関わる部分の集計結果です。問23の「生涯学習環境について不足していると感じるものは何ですか」という問いに対しては、図書館数が3番目で18.7%、とにかく情報が足りないということ(講座・講演会・イベント等の情報)が1番で37.3%、2番目は地域で生涯学習活動に利用できる施設(図書館・公民館を除く)で29.7%となっています。問28「町田市の図書館を利用したことがありますか」という問いに対して、「よく利用している」が14.5%、「たまに利用している」が26.3%で、合わせますと40.8%の方が利用していることとなります。「過去に利用したことはあるが、今は利用していない」が34.3%、「一度も利用したことはない」が23.2%で、合わせて利用されていない方が6割近くいらっしゃるということです。その下の「月に何回利用していますか」という設問では、平均すると2.81回、最もよく利用するの最大値が15回で、最小値が1回となっています。次にあまり利用されていない理由についての問いに対して、「特に必要性を感じないから」が29%、「図書館が近くにないから」が41.4%、「必要な本は自分で買うから」が33.6%、「返却が面倒だから」が23.8%となっていて、やっぱり近くに図書館がないからというのが大きい壁になっています。問29はご意見等もいただいて選択肢を少し増やした項目で、「図書館に最も期待するサービスは次のどれですか」ということで、複数回答3つまでで、「本や雑誌の貸出し」が一番多いのですが、その次に「学習や調べものの援助」がきていて、調べものやレファレンスはもっと低いのかと思っていたら、わりとそうでもないという感じです。全体が教育に関するアンケート項目になっていて、項目数が多いと回答率が低くなってしまいますので、質問事項を極力絞ったため、図書館については十分な質問項目を入れられませんでした。このアンケート結果については、学校教育部でもう少し分析してまとめたものを報告するという事になっていますので、全体の結果は改めてご報告できると思います。

6番目、鶴川駅前公共施設建設の進捗状況についてご報告しておきます。201

1年度オープンを目指して進めているところですが、結果としては少し遅れています。本当はこの8月に基本設計が出来上がっている予定なのですが、現在まだ基本設計に入っていません。まだ全体の建物をどうするかという議論をしています。この建物の建築については、町田市で初めて、最初の計画の段階から市民が参加するというケースで、何年か前から市民ワークショップあるいは地元のいろいろな団体の代表者による調整会議等を繰り返して検討しています。現在の構想では、地下に音楽ホールが入ることは決まっています。建物の構成としては、建物全体が駅前のコミュニティ施設という位置づけですから、地下に音楽ホールで、地上には大きく分けて図書館とコミュニティ施設が入ることになっています。市民ワークショップも音楽ホール部会、図書館部会、そしてコミュニティ部会の3つに分かれていて、各部会の中で自分たちの担当するところをどうしていくかを議論すると同時に、部会の代表者からなる幹事会をやられていて、その幹事会では3つの部会のすり合わせも行って進んでいます。設計者の選定も75ぐらいの応募があった中から、プロポーザル方式で環境デザイン研究所が設計者として5月に決まりました。この設計者が決まってから、具体的に図書館にも会議に参加するようという要請があった状況で、そういう建物を作っていくうえでの手法が大変難しいという感じがします。コミュニティ施設全体がホールや図書館やコミュニティが共存する複合施設ということに決まっていて、総合計画のような形で冊子にまとまっています。市民参加で作った総合計画に基づいてプロポーザルで設計者を選定していますので、選ばれた設計者の特徴的な考え方が「クロッシング」という言葉で象徴されています。それぞれいろいろな機能が入るけれども、それぞれがクロスして今までにない新しいものを目指していくという理念が評価されてその設計業者が採用されました。その後、コミュニティ、図書館あるいは市民ホールを管轄するセクションの担当者が呼ばれて、今、議論になっています。そういう意味で、図書館については課題の多い設計になっています。すでに7案出ている、設計者としては20案ぐらい作っています。現在までに提案されていたのはA～D案の5案なのですが、AB案は却下されて、C案とD案に収斂されてきました。

図書館としてどうしても譲れない4つの原則（基本的な条件）を設計者側に示しました。一つは、カウンターはできるだけ1箇所に。（人が配置されないのは明らか）。第2の条件は、館内の移動が容易であること。（障がい者の方も含めて移動が容易にできること）。3つ目が、死角がなく見通しが利いて安全であること。（利用者の安全性）。4つ目が、出来る限りワンフロアに図書館スペースを配置すること。最低限この4つを満たしてもらわないと図書館としては運営できないことと、このD案も含めて改めて検討してほしいと言っているところです。これらの案はまだ変更されると思いますが、C-5案の1階部分を見ていただくと、駅前に位置しますので、図書館をゆっくり利用するのではなくて、予約の本だけ受け取ってすぐに帰るという利用が結構あるのではないかとということで、1階部分は予約本を受け取れるだけのスペースしかない設定です。

D案は、1階の図書館部分がもう少し広がって、対面朗読室が入ります。この建物の位置がわかりにくのですが、1階平面図を下に真っ直ぐ行くと鶴川駅に出来

す。鶴川駅の改札を出て左側にずっと来ると、この平面図の風除室と書いてある正面玄関にTの字にぶつかります。このD案のブックポストと書いてある側に世田谷街道が通っています。反対の駐車場側に小田急線が通っています。D案は、1階部分の雑誌やブラウジングを少し図書館に取り込んで、図書館が所管するスペースになっているのですが、今度は中2階があって、中2階から2階に上がると、ぐるっと周りを取り囲むような形で図書館の書架スペースがあって、さらに中3階で囲むという感じなのです。大学図書館であればこれで良いかもしれませんが、公共図書館のイメージではありません。周りの回廊が長すぎて、特に健常者は途中の階段で他の階に移行できるのですが、車椅子の方はいちいちエレベータのところまで回って行って、上がり下がりしないと行けません。この点を指摘したところ、途中の短い何段かの階段をリフトで自動的に上がり下がりできるように簡単に設置できますという設計者の回答でしたが、あまり合理的ではありません。

もう一つ、図書館の中の検討チームに指示していることがあります。設計者から出された案について、問題点を指摘するだけでなく、併せて図書館側から逆に提案していく部分、要するに図書館の本来の機能を押さえた上で、鶴川駅前という立地条件に対して図書館側から打って出るような部分があるべきではないかということです。一つは、文部科学省がまとめたものに地域の情報拠点としての図書館ということが強く打ち出されていますが、その政策とは別に、やはりインターネット等を使って自由に情報検索できる機会を、もちろんご自宅ですでにやっていらっしゃる方はいるのですが、誰もが同じレベルでできているわけではありませんので、公共で無料でデータベースを検索できるなどを考えるべきではないかという議論があります。ただ中央図書館はもう20年近くが経過して施設も老朽化していますので、中をどう改造しても抜本的に対応することが難しいので、新しくできる鶴川図書館は駅前ということもあるので、鶴川地域だけでなく町田の図書館として一つの新しい情報へのアクセス拠点となることも可能ではないかと考えています。町田市では、公共施設でのインターネット利用が市民に開放されていません。そういうソフトの部分でクリアする必要があって、ただハードだけ設置すれば良いという問題ではないのですが、鶴川駅前図書館を図書館がそういうことを実現するための突破口にしたいと思っていて、情報を収集する拠点として考えられるのではないかとこのことを検討プロジェクトには投げかけています。もう一つは、大学・高校が周りにいろいろあって、小田急線沿線の中でも学生の乗り降りが非常に多い駅だということを考えて、ただ勉強するためのスペースということではない学生たちに対応できる図書館を何か考えられないかということ、大学図書館の資料を市民に提供することを和光大学図書館と中央図書館とで始めていますが、鶴川図書館が何らかの役割を果たすことはできないかを検討プロジェクトに投げかけているところです。図書館側から明確な提案をしていくことによって、設計者も平面計画を考えやすいと思われる。今、館内の検討プロジェクトで考えていますので、是非、いろいろとご意見をお聞かせいただきたいと思います。

また、もう一つ懸念していることは、運営形態についてまったく話されていないことです。企画調整課と市民課がこのプロジェクトの総合的な事務局になっていま

すが、運営形態についても今後市民ワークショップ方式で議論していくということなので、図書館については直営を主張していますが、建物のあり方に引きずられるような形で直営でなくなることを一番危惧しています。

7番目、10月19日に町田中学生議会が初めて実施されます。これは市議会の一般質問の中で、「他市では行っている小中学生の模擬議会を町田市では行わないのか」という質問を受けて、今回初めて町田市議会・町田市・町田市教育委員会主催で行います。市内中学生（公立・私立含む）を対象に公募をしたところ、32名から応募があり、応募の際には「こういう町田になってほしい、もし私が市長だったら」というテーマで提案・質問したいことを書いて提出してもらいました。生涯学習部で質問があったのは図書館だけで、3名の方から質問がありました。ありがたいことだと思います。市長が答弁する予定だそうです。当日は通常の議会同様傍聴もできますし、議会中継はインターネットで見られます。また、21日以降は録画もインターネットで放映されるようです。1人は南中学の3年生で、「図書館の開館日を一律にしないでバラバラにしてほしい」という質問です。月曜日と第2木曜日を全館一斉に休館していて、月曜日には月の1度コンピューターを止めて点検したり、開館しているとできない帳票の出力をしたり、第2木曜日は職員全員が集まって研修や会議を行ったりしているのですが、もう少し仕事の中身を見直して、例えば、中央が休館のときはさるびあや金森が開館したり、逆に金森が休館のときは中央が開館したほうが便利なのは確かですから、そういうことができるかどうか検討しますという答弁案を作りました。それからつくし野中の2年生からは「つくし野や鶴間に図書館を作ってほしい」という質問です。この地域は金森図書館の圏域から外れていて、図書館内部で作った施設計画でも鶴間方面に図書館設置が考えられていますが、町田市としては今まったく予定がありません。移動図書館がありますが中学生はその時間利用できませんが、建設予定がないのももう少し我慢してほしいというような回答にならざるを得ません。3人目は鶴川第二中学の2年生からで、「調べものをしながら勉強もできる図書館を近くにほしい」という質問で、必ずしも勉強部屋ということではありません。鶴川については今お話したように、駅前に準備をしていますということと、図書館が如何に大事かということと、図書館をこれからは是非使ってほしいという答弁案を書きました。その他は特にございません。

水越委員長：ありがとうございます。いろいろとご質問があるかと思います。文学館のロボックル物語の世界佐藤さとの展について、好評だったということですが、特に子どもの参加が多かったのでしょうか？

図書館長：定例教育委員会で文学館長が配った資料を用意いたします。子どもが来ても楽しめるような仕掛けをいろいろしていたようで、それなりに来館していたと思います。

勘解由小路委員：あの展示はとても良かったと思います。

水越委員長：関連で、決算特別委員会の文学館の文学の定義はどこまで文学ととらえているかという質問に対してどのように答えたのでしょうか？

図書館長：これは文学館長が答えましたが、単に一般的に言われる文学だけではなくて、

音楽や映画なども視野に入れて、幅広く文学として捉えたいという回答でした。6月に新倉孝雄さんの写真展を市制50周年記念事業で開催したことも含めて、いわゆる文学に限定しないで考えていきたいという回答です。

勘解由小路委員：幅広い定義は是非必要ですが、特に「ことばらんど」という名前を付けたわけですから、言葉で表現されるものはすべてととっても良いと思います。ところで、コロボックル展は全体的にすごく楽しいですし、今までの展示の中ではとても良かったと思いますが、一点だけ、ビデオ上映がありましたよね。あれは何分で何をやっているのか表示がなく、私は何分見ていけばいいのかと思ひまして、そういう細かいかゆいところに手が届く心遣いが必要だと、コロボックルに限らず今までの展示でも感じています。例えば、すごく字が多いときもあれば少ないときもあって、見る人に優しくないと思ひます。

図書館長：それは伝えておきます。

勘解由小路委員：市民アンケートの分析をいずれしますというお話ですが、図書館自身としても、もちろん分析されるのですよね？

図書館長：はい。分析といっても極めて限られた項目ですので、なかなか推測の域を出ない感じがします。

勘解由小路委員：そうですね。それに回答率が高いといっても50%弱で、回答するような人はこういうことに多少の関心は持っている人だと思うので、その%が高い、例えば「よく利用している・たまに利用している」が合わせて40%だとしても、その%をもう少し低く考えないといけません。問題なのは「過去に利用したことはあるが、今は利用していない」という答えが多いということです。つまり何かに幻滅したのだと思ひます。そういうふうなプラス面を見ていくべきだと思ひますが、マイナス部分を図書館としてどういうふうと考えていくのかということ、図書館評価の検討チームを作っているのであれば、よく分析していただきたいと思ひます。レファレンスが注目されているのはすごく良いことだと思ひますので、そのあたりも「やっていますよ」と宣伝しておきたいと思ひます。

水越委員長：教育に関する市民意識調査結果の分析のときに、是非、年齢別、特に50代・40代・60代の年齢の高い方の回答率が高かったので、健康に関する講座などに関心が高い結果となったのかなと思ひますので、年齢別の分析をしてください。例えば、「過去に利用したことはあるが、今は利用していない」という回答は、若い人よりも年齢の高い方に多いのであれば、推測ですが、なかなか図書館に行くことが難しくなって、最近では利用できなくなったということかもしれません。その辺を細かく分析されると、もう少し対応が考えられると思ひます。

勘解由小路委員：中学生議会のつくし野の中学生の質問に対して、図書館を建てる予定はないというお話について、私は今つくし野に住んでいますが、ここは高齢化がすごく進んでいます。小学生より70代以上の方のほうが多い地域で、近くに図書館がほしいという声が高齢者の方にも多いということも伝えていただきたい。図書を受け取れるところがほしいということだと思ひます。金森図書館へは、つくし野から見ると坂の上で行きづらいですし、必ずバスを使わないと行けません。バスは30分に1本ぐらいしかありません。それから「大学図書館を使ってみよう」のレジメはあり

ますか？見てみたいと思ひまして。

図書館長：当日配られたものがあると思ひます。

勘解由小路委員：どうやって調べたらよいかかわからないという方のニーズがすごくあると思ひます。図書館を使うのにも、使い方がわからないから使えないということもあると思ひますので、ただ単に本を置いて「いらっしやい」ではなくて、その辺をこれからは積極的に利用案内を、如何に利用されるかを研究していただきたい。

図書館長：当日は、3つぐらいのグループに分かれて、大学図書館の方が各階を全部案内してくれて、その後別の棟にある研修室で1人1台の端末を使って情報検索の仕方のレクチャーを受けました。大学図書館の方が作られた“おもしろい役に立つサイトの一覧”が紹介されて、私たちも知らないものが随分あって勉強になりました。

水越委員長：中教研でも同じ講座をやっていただいて、7、8人の先生が参加されて、皆とても喜んでいました。その後、それをきちんと使いこなしているかは定かではありませんが、これから総合学習の時間が減っていくという話があるのでわかりませんが、あの講座は理科や社会などの調べるのが比較的出てくるだろう教科の先生方に、是非研修としてやっていただくと、先生方にすごく参考になると思ひます。

中学生議会で鶴川第二中の生徒に回答する際、鶴川の方は和光大学の図書館を利用できるということを是非話していただきたい。

図書館長：はい、ただ答弁案はもう送ってしまって、締め切られていますので。

水越委員長：「大学図書館を使ってみよう」という講座はとても良い講座なのですが、まだまだ知られていなくて残念だといつも思ひます。鶴川駅前公共施設の図書館について、直営で行うつもりでいらっしやるのはすごくわかりませんが、人員的な配置は？例えば、2名、3名割かなければならいことになったとしても、大丈夫なのでしょううか？

図書館長：いいえ、まだわかりません。職員の定数管理については、2008年度が初年度ですが、2011年度までの期間で市全体の定員適正化プランということで、全体で250人ぐらい削減するという計画があります。図書館でも26人減らすという計画を作っていますが、鶴川駅前図書館がまだ具体化されていなかったもので、この計画に鶴川駅前図書館の人員配置は読み込まれていません。定員適正化プランは毎年見直しをしているので、鶴川駅前図書館については開館が明確になることが見えてきた段階で、定員適正化プランに反映させていかないといけないと思ひます。これは新たな施設建設ですから、正規職員の増プランを出すわけですが、定員適正化プランといいつつも職員を減らすプランですから、図書館からは増を要求するので市役所全体で調整してどこか減らさなければなりません。少なくとも図書館のスタンスとしては、一定程度の常勤職員と非常勤職員（嘱託）で、直営で運営したいと思ひています。

鶴川駅前図書館は金森図書館と同じ規模あるいは若干小さいかもしれませんが、金森図書館は住宅街に立地していますが、鶴川図書館は駅前なので、新しい鶴川図書館は金森図書館をしのぐ利用があるかもしれません。金森図書館は定員適正化プランで最終的には、正規職員が6名となって嘱託職員が9名になる予定です。この金森図書館の最終的な人数が一つの目安と思ひています。現在ある鶴川図書館をそ

のまま残す方針なので、純然たる人員増になるので、それはそのまま了承されるかは微妙です。6名の正規職員の代わりに再任用職員とか、団塊世代の退職がここ1、2年ピークとなり、年金支給となる65歳までの5年間は何らかの形で生活を保障しなければいけませんので、給料は半分以下になるのですが再任用制度というものがあります。その受け皿として再任用職員がいろいろな部署に入ってきます。再任用職員体制で運営するように言われかねません。あわせて、民間委託業者も育ってきていますので、これから鶴川駅前施設の全体をどう運営していくのかという手法の議論に入っていくということですが、本当に緊張する場面があるはずですよ。

勘解由小路委員：鶴川駅前図書館は、一種の町田市立図書館の看板にもし得る、例えば情報検索機能を持たせるならば、新しいサービスなので、そのサービスに職員が対応できないといけないと思いますので、そういうサービスが十分し得るメンバーにしていきたい。図書館とはこんなに良いサービスをしてくれるのだということも、鶴川の図書館でアピールしていけると、他の地域館にも行きますよね。そういう意味で、看板にし得るような体制にしていきたい。新しいというイメージを持たせたいならば、そうしていくべきだと思います。先ほどから気になることがあります。インターネットシステムが入れられないのは何かがストップしている、どうしてストップしているのかがわかりません。

図書館長：公共施設内でのインターネットの市民への開放が認められていないことですね。

近藤主幹：以前、中央図書館に入れたいという要望を提出して、政策会議等に諮る場面に出席しました。企画部から言われた考え方は、アンケート調査を行うとインターネットは市民にだいぶ普及しているのに、なぜ市がお金を使ってやる必要があるのかということでした。我々図書館側は、そうではなくて、個人が家でできることと、有料のデータベース利用とかとは当然サービスが違うのですとか、あるいは家庭でインターネットが利用できない方もいらっしゃるという話をしたのですが、企画サイドにあまり理解されなかったのが一点。情報システム課サイドとしては、公共図書館に置いてあるパソコンを利用して、いたずら（ウイルス）というか、町田の図書館のパソコンを踏み台にしてどこか情報漏えいさせるといようなことを恐れて、情報セキュリティの関係から望ましくないということでした。

勘解由小路委員：10年、15年前の議論のような気がします。京王線沿線7市協定の図書館を見ても、インターネット検索端末がないのは少ないと思います。つまり、市民が使えるインターネットを備えてないところのほうが、今、少ないと思います。

図書館長：そうですね。

勘解由小路委員：八王子市も稲城市も入れているし、この7市と比較しても町田市は入っていない。その理由が、非常に納得がいきません。確かにインターネットは普及していますが、私が勤務している区内の図書館には、いつもインターネットの利用者がいますよ。23区内にお住まいの方でも利用されるのですよ。入っていない理由が理由になっていません。なおかつ、図書館にインターネット検索ができるシステムがあるのは、本と一緒にそれが見られる。検索したことが本で確認できるという、これももう古い5年前ぐらいの議論です。ですから頭をもう少し柔らかくしていただきたいと思います。

図書館長：相模原でもいたずら等があって、問題があるのは確かなのですが、インターネットを開放すればそういうある程度のリスクは想定されるので、それに対する手立てをきちんとしておけば、今、勘解由小路委員が言われるように、そういうリスクのためにやらないということにはならないだろうと思います。市のホームページのつくりもまったく同じで、要するに、課独自のホームページは認められていません。市役所の公式ホームページから入っていくのですが、極めて使いにくく、皆が認めているのになかなか改まらない。これが今の状況で如何ともし難いのですが、鶴川駅前図書館の具体的なことを掲げて、中央図書館の場合はスペースの問題等があって難しいので、鶴川を一つの突破口にして実現していきたいと思っています。

松尾委員：是非、実現させていただきたい。今、情報を抜きにした図書館サービスは考えられないと思います。館長からご説明いただいた市の対応は確かに時代にあっていないようです。サービスの基本は多くの市民が利用できる環境を作ることなのです。インターネット利用者全体の中でいったい何人の人が「いたずら」をするのかというと、ほんの一部だと思います。極少数のために皆さんがサービスを受けられないというのは、市民サービスに対する考え方が間違っていると思います。少数の「いたずら」に対して、それを防ぐ手立てをしながら、多くの皆さんが情報サービスの提供を受けられる環境を作ることが、町田市のような先進都市なら当然のことだと思います。

阿部委員：鶴川駅前公共施設の中の図書館について、先月、私の属しているグループの例会で、このお話のアウトラインをお伝えしました。鶴川に住んでいる私共の仲間が最近増えまして、私たちが提供している対面朗読の鶴川にお住まいの利用者もかなりいらっしゃいますので、利用面からも今度の鶴川図書館内に是非対面朗読のためのスペースを作っていただけないかという声がメンバーからありました。今日このD案で、初めて対面朗読室が出てきました。今まで見せていただいたAからC案にはありませんでした。気が付いていただけたのかなと思いました。対面朗読は声を出すものですから、一般のオープンなスペースではできません。かつて中央図書館ができる前、さるびあ図書館が中央図書館であった時代には、一般の閲覧席で一時期対面朗読させていただいたことがありましたが、周りの方からひんしゅくをかったという経過もあります。現在中央図書館にあるような立派なものでなくてもかまいませんので、せめて対面朗読ができる小部屋があるといいなという意見がありましたので、お伝えしたいと思います。

図書館長：これはずっと前からで、金森図書館を建築する際にも対面朗読室を作りましたし、特に視覚障害の方で中央図書館まで来ることが困難な方は多いわけですから、地域館には作ろうということで、最初から要望をしています。

阿部委員：利用者の方も我々メンバーも高齢化してきていますので、近くにあればお互いに非常に利用しやすいです。

市川委員：鶴川駅前公共施設の平面図が毎回変更されたものが出ていますが、いろいろなところでの話し合いで変更されていくのはよくわかりますが、例えばC-5案とD案を比較しただけでもNPOフォーラムというものがあって、NPOフォーラムにはこれくらいのスペースが必要であるとか、全部2階にしてほしいとかという意見が

それぞれから出されて、毎回こういう形で変更されていっているのでしょうか、それとも設計者の考え方なのでしょうか？図書館でいえば、どうして図書館スペースを例えばC-5案で図書館を2階にしてNPOを3階にできないのかという単純なことなのですが、疑問です。それは設計側だけの問題ではなく、利用する側の意見を取り入れて、こういう案がどんどん出ているのでしょうか？

図書館長：両方なのです。ワークショップでの意見では、図書館は図書館部会に参加している柿本文庫の方からワークショップの前に意見や相談されてそれに答えているので、図書館側はわりと市民の方と図書館側で言っていることが重なるようになっていきます。図書館は一枚岩なのです。しかし、コミュニティ部会はいろいろな人が関わっていて、NPOをやっていて自分たちの拠点となるスペースが必要だという方もいれば、エクササイズルームの運動に関心のある人もいれば、屋上緑化に関心を持っている人もいれば、子どもの託児の問題に関心のある方、それから行政窓口が近くなって不便なので、駅前ですべて行政手続きができるようにということで町内会から出てきた人とかいろいろな方が参加しています。NPOフォーラムについても、先日この案が出たときに議論の中で修正がありました。NPO法人だけのスペースではなくて、学生も使えて、商店街の方も使えるコミュニティのスペースなので、NPOフォーラムとうい名前の付け方は違いますという意見がありました。コミュニティ施設なので、コミュニティとして何かいろいろなことをやっている人たちが、NPO法人に限らず、そこを使えるスペースという意味だと改めて言っていました。

設計者の意図は、全体が一つのコミュニティ施設として機能するという考え方なのです。3層に分かれるというのも、図書館とそうではない機能がそれぞれのところで背中合わせになっていることにこだわるわけです。2階だけが全部図書館というプランも出たのですが、設計者としては、図書館が図書館の独立性を強く主張したので作ったということです。プランが毎回変更になるのは、図書館が図書館としての機能が発揮できなければ困るという意味で、先ほど申し上げた4つの条件もごく当たり前の条件なのです。それがコミュニティ施設とのコラボレーションを妨げるとは私は考えていませんし、NPOフォーラムのようなところで集まる人が図書館の本を利用することは当然できますよと言っても、設計者としてはフォーラムのところからパッと図書館に来られることが重要だと考えているのだと思います。

久保委員：市川委員が言ってくださったので、そのNPOについて感じていることが言いやすくなりました。私は自然のを中心に関わっていますが、今まで市民団体が自主的にやっていたことに対して、今町田市の新しい方向としては市民がNPOを立ち上げないと関わりにくいということが(他の地域ではそういうことをもっと早くからやっているらしいですが)、町田市ではここにきてそれがとても強く出てきているのを感じます。今日提示されたC案などを見ると、プランが刻々と変わっていくのが市民の方たちの意見なのかどうなのかと市川委員が質問してくださったのですが、これはとても市側の意思が働いているように感じるのですよ。一見、いろいろな方の意見を聞いて、本当に何回もステップを踏んでいるのですが、このようなプランがパッと出てくると、結局、市の持って行きたい新しい方向に具体的なこ

とが進んでいくのかなと感じます。今度また話し合いがあるならば、そういうことに惑わされずに、皆さんの意見を言ってもらいたいと思っています。住民の意見がどこまできちんと反映されるのか、ここまでお金をかける事業なので、とても大切だと思います。今日いただいた松尾委員の書かれた事業仕分けについての資料に載っていますが、「町田市民は蚊帳の外で」ということにならないように、鶴川駅前施設のこともすごいスピードで進んでいると思いますので、一見住民の声が反映されているようだけれども、設計者や理事者等で早いテンポでいってしまわないようにということが、全体的な町田市の流れの中でちょっと心配だと思います。

勘解由小路委員：鶴川駅前図書館案について、条件を4つ挙げられたようですが、ブックディテクションシステムを少なくするのはカウンターと一緒にですね。

図書館長：そうです。カウンターとリンクしている必要があります。

勘解由小路委員：そう考えると、D案は絶対無理だと思います。

水越委員長：以前、メガシェルフの話が出たときは、地下ホールのステージの上の吊りものを収納するためにこの空間が必要で、それを利用するためにメガシェルフがあるのだという説明であったと思います。今回のC案もD案も、実際には1階平面図では切られていますよね。私は建築学がよくわかりませんが、この2層部分にこのメガシェルフが構造的に必要なということが本当か疑問です。構造壁として必要ではないのではないかと。1階がそうではないのに2階3階だけ構造壁が必要だというのは、あるのかもしれませんが、他のこともいくらでも可能ではないかとちょっと思いました。

図書館長：1階も柱は立つのですよ、壁にはならないのですが。私もそこはよくはわかりません。

水越委員長：D案では確かに1階に柱があるようですが、C案にはありませんよね。だからどうにでもなるのかなと実は思いました。

図書館長：とにかくこれが一番頭がいたいです。この周りをどう使うのかと逆に設計者に質問しているのですが。

水越委員長：11月6日と28日の夜7時からですね。お時間がある方は是非出ていただいて、次回に感想をいただければと思います。図書館部会とコミュニティ部会の合同部会があと2回で何とかまとまるのでしょうか？

図書館長：実際にはコミュニティ部会として統一的にこうでなければいけないという条件などはあまり無いみたいなのです。それぞれの部分に関わっている方は強い意見をお持ちですが、だから全体の配置としては、それぞれの主張していることがどこかに実現されていれば、日当たりが悪いなどの意見はあるかもしれませんが、それなりの要望に叶うスペースと位置があれば、納得されるのではないかと思います。逆に図書館のほうは、3層にまたがっては困るとか、出入り口は1箇所でない困るというように図書館の事業を実現するための原則的な部分がありますから、むしろ図書館側が固まれば残りの部分にコミュニティをどう入れていくかということではないかと我々が言ったところ、設計者もそうですねと言うのですが、逆に企画サイドからは図書館が先走って図書館の都合の良いように決めないでほしいと言われています。

市川委員：結局はこの駅前公共施設が市民にとって使いやすく、皆にとってこれが出来て良かったと思われなければしょうがないということが基本的なところだと思いますので、いろいろな立場の方のいろいろなことがあるのだと、先ほどのあるところを変えたら元々が変わってしまい、こここのところから難しいのですが、皆さんにとって使いやすい図書館ということが一番メインに言われていけば、他のところがそのために何か困ることが無ければ、そこは強く主張していけると思います。ですから先ほどからなぜこういう形になっていくのかがとても疑問に思います。一つ一つ不思議な形が出てきて。

図書館長：率直に言うと、設計者も非常に苦しい中で設計していることは間違いありません。誰がどのように使うのが確定していない中で、こういう施設を入れてほしいという要望だけで、その要望自体も十分にイメージが共有されていませんから、なかなか判断が難しいところがあります。なおかつ、それがほしいのはほしいのだけれども、いったいだれがそれを管理運営するのか、具体的にはそこは何時まで開いていなければいけないのかとか、そういうことが実際にまだ決まっていなくて、設計をしているわけなのです。本来、図書館を単独で設計するときには、開館時間や運用の仕方など仕様をみてどう設計するかになりますから。ですから設計者も随分不安なのではないかと思えます。

勘解由小路委員：図書館が旧来の図書館のイメージで捉えられている間は、図書館が先走りしないようにと言えるかもしれませんが、情報センターという位置づけにすれば、ニーズに合致しているわけですから、例えばこの前の市民アンケートでも生涯学習環境で不足・必要としているのは「情報」だという答えも出ているわけですから、そういうふうなアンケート結果も使って、情報センターとしてのイメージですよ。また「コンシェルジュ」という言葉を使いたがるのであれば、情報サービスということを前面に出して、図書館に良い環境をとすることは言えるのではないかと思います。

今、ホームページで市制50周年記念事業をクリックすると、ずらっとスケジュールが表示されていますが、各情報のちらしともリンクして見られるので、悪くないと思っています。変にものすごく難しいシステムにしなくても、それと同じようなもので良いと思います。そういうものをどんどんやっていけば、町田のサイトだけで良いので、とりあえずは身近に市民が行けるところで、この「講座・講演会・イベント等の情報」に対しては応えられるのではないかと思います。これはなかなか良い試みで、できれば続けてほしい。

図書館長：先ほどコピーはしなかったのですが、別のアンケート項目で、問20「自主的な学習活動を行うにあたって、どこから情報を得ていますか」という問いがあって、その選択肢の中に公民館・図書館を加えたのですが、回答で一番多いのはインターネットで47.4%です。雑誌や新聞は0.1ポイント違いの47.3%で、インターネットが相当割合で情報のツールになっています。3番目が知人・友人で、市の広報や市のホームページは4番目で33%になっています。公民館・図書館は14.3%で、やっぱりこれから益々そうでしょうが、インターネットでの情報収集がすごく大きな割合になってくると思います。余計なことですが、ただインターネットに出てこないと

無いかということそうではありませんから、インターネット情報を過信しすぎるといけません。

廣瀬委員：図書館に限定ではなく、鶴川駅前の皆が利用するための建物についての質問です。コミュニティ部会や図書館部会などここに入る市民の方が中心に検討されていますが、特に学校関係者の意見の反映はないと考えてよろしいでしょうか？

図書館長：少なくとも、ワークショップのメンバーは皆市民から選んでいますし、学校関係者の枠が別にあるわけではありません。もう一つある調整会議には地域の商店街や町内会の代表者10人ぐらいの構成ですので、無いと思います。

廣瀬委員：そうでしたら、学校関係者として一つ要望または確認をしたいのです。ご存知のとおり、うちの山崎小学校にも肢体不自由学級があり、その子どもたちが校外学習する際に一番困るのは、寝たきりに近い子どもたちが利用できるトイレが少ないことです。「誰でもトイレ」でも、中にベッドが置いてあるトイレは非常に少ないのです。たまたま今年は、「高尾の森わくわくビレッジ」という都の施設（元都立高校を一般市民の社会学習などに開放されるように大きく転身された施設）に今回初めて、うちの肢体不自由学級が宿泊をしに行ったところ、どの階にも全部「誰でもトイレ」があって、そのすべてのトイレの中にベッドがありました。ですから重度のお子さん、筋ジストロフィのため殆んど電動車椅子で、自力では難しいお子さんでも、介助者の腰に負担なく、安心して人目を避けてくつろぎながらできる場所があるのです。すごくお金がかかるのだらうと思ってすごいなと感心して、町田市はどうかなと思ったときに、新設校でさえ車椅子用はあるけれども「誰でもトイレ」がないという状況です。せっかく鶴川駅前にこんなに立派なものが新設されるのならば、1階のトイレの一つでも「誰でもトイレ」があれば、駅前なので緊急事態に何かいろいろな人がいろいろな形で利用できるのではないかと思い、トイレスペースに計画されているかどうかを確認していただけたらありがたいです。

図書館長：実際には、まだそこまで議論をしていませんので、細部についてはまだ考えられていないと思います。

廣瀬委員：校長会では、鶴川駅前公共施設の進捗状況について口頭で簡単に伝えていますが、特に鶴川地域の校長先生方は関心を持っています。

水越委員長：そろそろ時間になってしまいましたので、次回の日程確認をいたします。

***** 日程調整*****

水越委員長：今日ご欠席の方の日程を確認していただいて、11月14日（金）か11月18日（火）のどちらかにいたしましょう。それでは今日はおしまいにさせていただきます。

図書館長：どうもありがとうございました。

次回（第13回）の日程：2008年11月18日（火）午前9時半～午前11時半
中央図書館6F中集会室

議題 ・館長報告
・教育プランについて
